

「福祉の店パレット」

DATA 住所:鈴鹿市庄野羽山4丁目1-2
ベルシティ2階
TEL:059-375-0630

イオン鈴鹿ショッピングセンターベルシティ内にて営業しています。三重県下約30箇所の作業所で作成された手作りの商品が揃っています。品揃えは幅広く、生活用品、雑貨、食品類等で、どれも手作りの温かみがあります。特にパンやクッキーなどは、人気があり、納入日を待ちわびて買いに来ていただくお客様もみえます。

また、就労の場として障害を持たれた方が働かれています。接客・レジ係・店内整理等の業務に取り組まれています。お近くにお越しの際には、ぜひお気軽にお立ち寄り下さい。



●外来診療担当医表 (鈴鹿厚生病院)

		月	火	水	木	金
午前	初診	高山	中瀬	小野	野村	川喜田
	再診	中瀬	川喜田	川喜田	西浦	
	再診		山本		中瀬	
午後	初診	中澤	宇野	林	西村	山本
	再診	小野	西浦		高山	西村
	再診					

編集後記

秋夜、鈴虫の鳴き声が心地よい今日この頃、皆さまいかがお過ごしですか?今回は、院内レクリエーションなどについて、お知らせいたしました。

さて、広報委員スタッフは「Live With すずか」の名のとおり、皆さまと一緒に創っていきたく考えています。本誌へのご感想や、こうしたことを取上げてほしいなどのご要望・ご意見がございましたらお気軽にご連絡ください。

「Live Withすずか」は、当院の理念である“ささえあい、ともに生きる”からネーミングしたものです。今後も、病院の紹介・精神科疾患への理解・メンタルヘルスなどの情報を発信してまいります。

TEL・059-382-1401 (代表) FAX・059-382-1402 Eメール・info@skh.miekosei.or.jp

理念 ささえあい、ともに生きる

基本方針

- 患者さまや地域の皆さまに、信頼され選ばれる病院づくりを行います。
- 患者さまが地域で快適な生活が送れるよう、積極的にサポートします。
 - 患者さまの人権を尊重し、きめ細かく配慮します。
 - 患者さま一人一人の治療プランに添った医療を行い、一日も早い家庭・社会復帰を目指します。
- 地域におけるメンタルヘルスに積極的に取り組みます。
 - 医療の質向上に向けて日々研鑽を積みみます。

ともに生きる… Live with すずか

地域の皆さまのお役に立ちたい情報誌

院内レクリエーション

鈴鹿厚生病院では、年間を通し様々な催しを行っています。今号では、まもなく開催される病院祭についてと、去る8月に行われた盆踊り大会について、お伝えしたいと思います。

第18回病院祭開催のおしらせ

鈴鹿厚生病院では、恒例の病院祭が10月14日(土)に開催されます。テーマは「共に歩もう」患者さま、地域の皆さま、そして職員が共に手を取り大きな(輪)になりサブテーマの「新しい風を感じて」で新鮮な風を感じたいと思いを進めています。今年は、様々な分野に声を掛け盛だくさんの内容で計画しております。たとえば、紀伊長島漁業協同組合協賛のマンボウ解体ショー・県下県外そして厚生病院職員によるよさこい踊り・三重県指圧協会の足つぽマッサージ・更には品数豊富でボリューム



昨年のガーデニング講座の様様

ムアップの模擬店食品コーナーなどまだまだたくさん用意しています。何所をとっても満足度120%…

また、特別講演では、鈴鹿医療科学大学保健衛生学部医療福祉学科助教授貴島日出見先生により「障害者の新たな扉」と題しまして講演を予定しております。このような活動を通して人と人との関わりをを広げ仲間をつくら地域の方々との交流を深く理解しあえる場になっていけると、こころより思います。



昨年の餅つきの様様

納涼盆踊り大会が開催されました。

8月3日に鈴鹿厚生病院一大イベント『納涼盆踊り大会』が開催されました。昨年

3年ぶりに復活開催されたわけですが、今年はグラウンドを使ってより盛大に、そして賑やかに行なわれました。初めてのグラウンド開催ということで会場設定に四苦八苦するところもありましたが、職員だけでなく患者さまにもポスター用の絵を書いていただいたり、飾りのお花を作っていただくなど職員と患者さまが一体となって病院全体で盆踊りに取り組むことが出来たと思っています。開催日当日は天候にも恵まれ、少しずつ日が翳っていく中で提灯の灯りが灯り、軽快な盆踊りの曲にあわせて浴衣姿の患者さまと職員がやぐらを囲んで優雅に(?)踊ることが出来ました。今年は恒例となっている職員バンドの演奏のほかにも職員がよさこいの踊りを披露するなど踊り以外にも充実した催しが行なわれ、患者さまにも喜んでいただけました。また地域の方々もご参加いただき、病院での行事を理解していただいていることを実感することが出来、嬉しく感じられました。来年もぜひお越し下さい。

心の健康セミナー 誌面版

心の健康セミナー誌面版は皆さまに精神科病院や病気などをテーマに沿って毎号連載し解説していくコーナーです。

毎号
連載!

テーマ デイケアとは、

デイケアとは、精神科病院・診療所(クリニック)・精神保健センター・保健所で行われている社会復帰援助活動のひとつです。退院しても目標が持てず、社会参加や安定した地域生活に移行することが難しく、閉じこもりがちになってしまう人や、他の人と接する機会が少なく、生活の幅を広げていきにくくなっている人に対して、日中行なわれる集団活動の場です。目標を持って出向く先があることは、ご家族にとっても今までかかえ込んできた役割を見直し、負担が軽減でき、一緒に生活する上で必要な『距離感』を生み出す事ができます。

今回の講師の紹介



米田正美師長

● デイケアってこんなところ?

- 改善できることにもつながります。
- ⑤ **興味・関心の開発**
デイケアでのプログラムの中で、様々な経験ができます。集団で行なう事で、楽しみを見つけたり興味を引き出したりします。
 - ⑥ **生活の質の向上**
趣味や、何か打ち込める事ができると余暇の時間が有効に使えたり、仲間と共通の話題ができます。
 - ⑦ **生活技能の獲得**
日常生活を送る上で必要な能力をデイケアの中で経験、練習し身に付けていきます。また、スタッフ・PSWが相談に応じ個別にすすめられます。
 - ⑧ **社会参加活動**
他施設との交流会や、地域ボランティアの方々との親睦会などにも参加します。イベントやスポーツでの交流を通して、社会活動に参加することができます。
 - ⑨ **就労支援**
仕事に就きたい方、復職を目指している方には、就労支援のプログラムがあります。また随時、スタッフが相談に応じて、就労に対する意識や心構えの確認ができます。
- ③ **対人交流の場**
デイケアで過ごすこと、あるいはプログラムを通して、交流がうまれます。集団の中で、誰かと何かを一緒にやることで、仲間ができたたり友人が作れたり、おしゃべりができる相手が見つかったりするものです。人付き合いの練習の場にもなります。
- ④ **自己認識の向上**
創作的な活動を通して、長所・短所を含めた自分自身の能力(限界)を気付くことができ、それに基づいて、作業能力をのばしたり、役割や集団の中で行動することで、自分自身の弱点を見つけ少しずつ

● 焦らずゆっくり治療を続けましょう

退院後も、活動性・注意力・集中力・感情の低下・周囲への無関心など、エネルギーの低下が持続する時期が続きます。デイケアではそういった症状に対し、主体的な動きが取れるよう援助を行なっていきます。回復のスピードには個人差がありますが、焦らずにゆっくり取り組む姿勢が大切です。

診察室から

明確な目的のない安易な入院は、治療上好ましくありません

98歳の女性(〇〇さん)。同居する長男の妻らに付き添われ、当院を受診された。

家族:家族の言うことを聞かず、突然外出して困るんです。入院させたいんですが。

医師:〇〇さん、ご機嫌いかが?

女性:はい、元気です。

医師:何かお困りの事ありますか?

女性:なんもない、楽しくしています。

医師:一人で出かけたりしますか?

女性:自分の欲しいもんは買いに行く。

医師:道に迷ったりしませんか?

女性:ちょっとそこまでなんでしません。

医師:物忘れは?

女性:そりゃ年やでなあ。フフフ。

診察場面では、身だしなみも整い、表情も穏やかで、受け答えもしっかりしていた。家族によると、日常生活も特には問題ないとのこと。思い立つと、一人で近所のA・コープへ買い物に行ったり、自分のお金を貯金しに農協へ行ったりするが、きちんと目的を果たし、道に迷うことなく帰ってくるという。物忘れもひどいとのことであったが、認知症の検査では、正常範囲内であり、作り話なども認めなかった。

医師:徘徊(目的なく歩き回る)ことというわけではなさそうですね。認知症ともいえない段階ですし、入院は必要なさそうですね。

家族:でも年なので、ひたくりにあたり、こけて怪我するかも。入院を...



中澤恵太医師

医師:確かに心配です。ただ、入院したからといって、当然のごとく年相応の物忘れや判断力の低下は治りません。では、どういう状態になったら退院を希望しますか?

家族:家から外に出なければいいんですが。

医師:普通の外出は止めきれませんよ。

家族:少しだけでも入院は無理ですか?

医師:〇〇さんご自身も入院は希望していません。今の時点で、ご家族の希望だけで強制的に入院させるのは大問題です。現在の〇〇さんに必要なのは、入院ではなく、現在の生活機能が低下しないように援助をしていくことです。ご家族は、接し方を工夫してみたいかがですか?デイサービスやヘルパーの利用も考えてみてください。

主治医から

病院はあくまで治療の場です。入院目的、治療目標がなければ、入院の適応にはなりません。また、高齢者の場合は、入院するだけでも認知症が進行し、生活機能が低下してしまう危険性があります。安易な入院はなるべく避ける必要があります。

スマイリー・バトンリレー

vol
8

医事課



医事課のスタッフ

窓 口・会計、保険請求、申請手続きなどの業務を行っています。窓口は「病院の顔」として、早く・正確に・明るい笑顔で対応できるように常に心がけています。また会計は、診療内容を点数化し、正しく料金化し、算定基準も近年ますます複雑化する傾向にあるため、新しい医療技術の知識も吸収しています。保険請求は、日々発生した医療行為をとりまとめ、診療収入として1ヵ月単位で社会保険等へ請求を行い、市町村役場へ医療費助成・福祉関係等申請、労災・自賠責保険の請求手続きを行います。その他の業務として、医療保護入院などの事務手続きを行っています。医事課は院内院外を問わず集中する情報を正しく判断し、適切に処理する重責も担っています。地域の方々に信頼される病院をめざし、さらなる業務の充実を図っています。

ほっとニュース

● 10月から医療保険制度が変わります

10月より70歳以上の患者負担が以下のように変わります。

	現行	2006年10月～
70歳未満	3割負担	従来通り3割負担
70歳以上	1割負担	従来通り1割負担
70歳以上の現役並の所得者 (夫婦で年収621万以上、 単身484万以上対象)	2割負担	3割負担 (夫婦で年収520万以上、 単身383万以上対象)

● 家族教室のお知らせ

当院では、統合失調症及び非定型精神病患者さまのご家族を対象とした家族教室を開催しております。ご病気に対する基礎的な知識を共有し、治療に対する理解を深めて頂くことを目的としております。医師、看護師、薬剤師などのお話を講義形式で取り入れております。興味、関心のある方は、病院職員までお問い合わせ下さい。ご参加をお待ちしております。

<第1回>平成18年11月18日(土) 13:00~15:30

<第2回>平成18年12月16日(土) 13:00~15:30

院内百科 vol. 1

鈴鹿厚生病院には各部署の職員がより良い医療を提供するために、さまざまな委員会や、チームを組んで医療サービスに取り組んでいます。新コーナー院内百科vol.1では感染委員会を紹介いたします。

感染委員会

今日の医療現場では、感染リスクの高い処置を受けた患者さまにおいて、院内感染リスクが存在しています。病気を治しに来ている患者さまが、感染症により多大な苦痛、負担を強いられる事はあってはならないことです。当院では今年度より「院内感染防止ワードオーデッド」を作成し2ヶ月に1回、安全衛生委員が各病棟をラウンドするようになりました。当院独自の評価表を作成し、各項目にそって指差し確認にて評価していきます。ラウンド終了後も意見交換、反省を行い次回に活かすよう努めています。評価スコアも徐々に成果がうかがえ、各職員の感染に対する意識も高まってきたと思われます。これからも継続し、患者さまが安心して治療を受けられる、環境作りを行ないたいと思います。

